

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立高木瀬小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和5年4月18日（火）

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童（中学校3年生生徒）

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学、英語)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
 - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

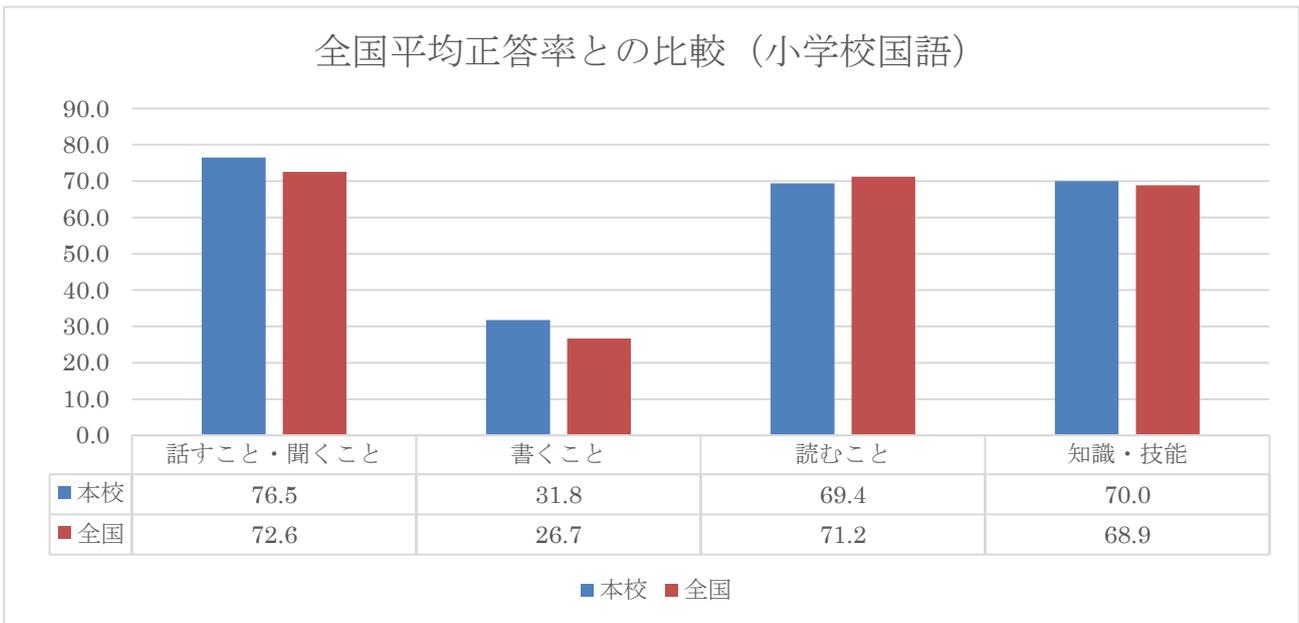
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、英語（中学校）に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「知識・技能」は、全国平均正答率を上回っています。また、無解答率をみると、ほとんどの問題で全国平均よりも低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「話すこと・聞くこと」が 3.9 ポイント、「書くこと」が 5.1 ポイント、「知識・技能」が 1.1 ポイント上回りました。国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなすのは言葉の力であり、普段から、取り組んでいる漢字や言葉の学習、音読などの成果が表れていると考えられます。課題は、問題形式の「記述式」の正答率を上げることです。正答率 51.5%は、全国平均正答率 51.1%を上回っているものの、無解答率は対全国比 0.9～4.3 ポイントも高く、苦手になっている児童が多くいることが分かります。児童の記述力を高めることが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の力を伸ばすことにつながります。単なる「知識」を問う問題ではなく、「思考力・判断力・表現力」を重視した問題が増えていく傾向にありますので、授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

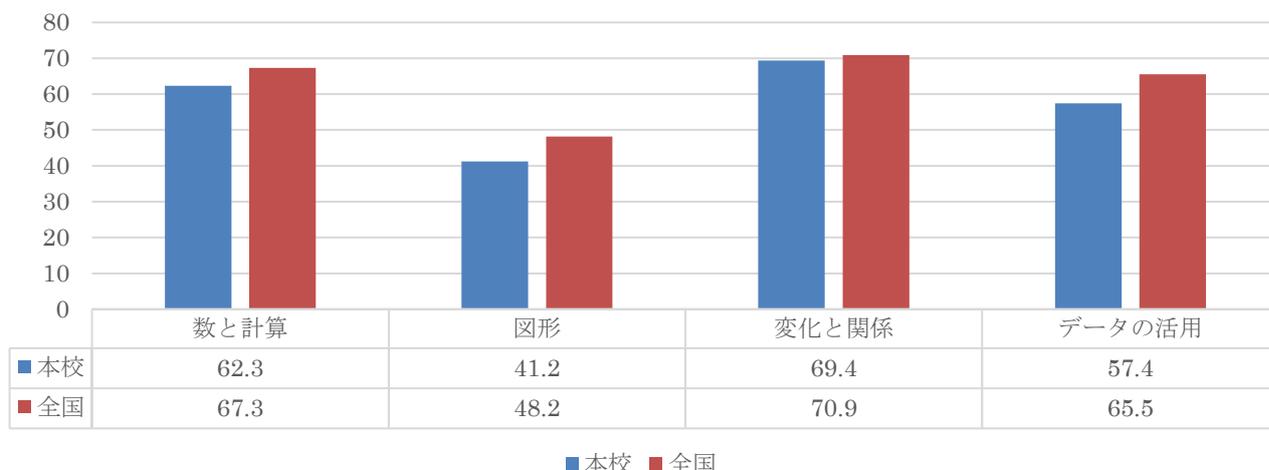
- 書き慣れや書く必然性・満足感・達成感のある単元開発などにより、書くことへの抵抗感を減少させます。
- 身につけるべき資質・能力を子どもたちと共有し、単元の学習に臨み、視点をもってふり返りを行います。
- 記述の際、条件を満たすことができるように、日頃から授業のふり返りや宿題で条件を提示し、臨ませます。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていきましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていきましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。市立図書館や書店に定期的に行くことも、子供の読書習慣をつける上でおすすめです。

2 算数(数学)

全国平均正答率との比較 (小学校算数)



(1) 結果

全ての領域で全国平均と同程度かもしくはやや下回っていました。また正答数分布グラフにおいて全国や県の分布に比べ、ばらつきが大きく個々人の学力差がとても大きくあらわれていました。

また、無解答率を見ると、問題形式によらず、ほぼすべての問題で全国平均より高くなっていました。

(2) 成果と課題

伴って変わる二つの数量問題については全国平均とほぼ同じか上回っていました。反面、「B 図形」の領域の、面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題の正答率は全国平均を大きく下回っていました。図形の観察や操作活動などを通して、図形の意味や性質を考えることができるようにすること及び論理的に筋道を立てて説明することが重要であると捉えています。

算数で使う用語、公式、定義等をしっかり覚えさせ、日々の授業で説明する活動、書く活動で使っていくように指導を続けていきます。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 各学年で習得すべき知識については反復学習でしっかり定着を図ります。
- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、筋道を立てて書く機会を増やし、論理的思考の育成を図ります。
- ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数が好きになるためには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身のまわりには算数を使えるものが意外とあります。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童(生徒)の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	79.4	83.7
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	42.6	38.1
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	50.0	55.1
自分にはよいところがあると思いますか。	29.4	42.6
将来の夢や目標を持っていますか。	61.8	60.8
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	66.9	75.3
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	77.9	82.6

朝食・起床については全国平均を下回っています。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていけることはとても重要です。家庭と学校で協力して、習慣化していきましょう。

「将来の夢や目標を持つ」の項目については、肯定的な回答をした児童は全国平均よりも高い結果が出ています。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	17.6	28.7
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	8.8	11.8
「2時間以上、3時間より少ない」	11.0	13.8
「1時間以上、2時間より少ない」	30.1	31.5
「30分以上、1時間より少ない」	25.0	26.9
「30分より少ない」	18.4	11.4
「全くしない」	6.6	4.6

家庭学習については全国平均と比較すると、家庭学習ができていない傾向にあります。1時間未満の児童が5割以上おり、中には全く家庭学習をしていない児童もいました。かなり個人差が見られるので、「家庭学習の手引き」をもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導していきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。自主学習(自学)についても取り組み、お手本になる自学ノートを掲示して定着しつつあります。これからも少しずつ広がっていきます。
- 始業前、朝の読書の推奨をしたり、図書委員を中心に読書イベントをしたり、ボランティアによる読み聞かせをしたりするなど、読書の機会を増やすための工夫をしています。効果が現れてきているので、これからも継続していきます。

【ご家庭では】

- 上記の項目は、改善を図ろうと「すこやか点検」でも取り上げている項目です。「すこやか点検週間」だけでなく、規則正しい生活と家庭学習の定着を図ることは、極めて大切なことです。お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が更に高まります。
- 「高木瀬小家庭学習の手引き」をご覧になり、学習時間のめやすや、自主学習の説明を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。